

## 私の妹

私の妹はかわいい。いつもケタケタ笑う。周りの人が困っていたら、とても心配をし、「どうしたの？だいじょうぶ？」と顔を覗き込んで、聞いてくる。公園に行くと、私の後ろを追いかけてくる。まだ上手に走れないけれどいっしょうけんめい追いかけてくる。私は、そんな妹がとてもかわいいと思う。妹はカラオケが好きでマイクを持って、とても大きな声で楽しそうに歌う。まだ上手に歌えないけれど、とても楽しそうだ。妹は私とは違う学校にかよっている。家からは、遠いけれど、毎日元気に帰ってくる。学校で何をしたのか、色々教えてくれる。私は、その話を聞くのが楽しみだ。

私の妹は、特別支援学校にかよっている。家族の中では、ふつうのことだけれど出かけると、それは、ふつうのことではないらしい。走るのは、とてもおそく、歌は歌詞が違う。声は大きくみんなが不思議そうに振りかえって見ている。そのたくさんの視線は妹だけでなく家族全員にむけられる。私は、その視線が少しはずかしかった。私も変に想われているのではないかと感じることもあった。妹にそんな大きな声で話さないでほしいと思うこともあった。けれど、そう思ったのは一瞬だけで、妹の笑顔を見るとそんなことは、まったく気にならなくなった。私の家族は、妹をととても大切に育てている。こうきな視線があってもどンドン外に遊びに行くし、なんなら一緒にはしゃいでいる。目立たないようにする気持ちはいっさい無いようだ。そんな両親のおかげなのか、私の周りは、妹を差別するような人は居ない。私の母は「わからないから偏見が生まれるんだよ。だから自分からもっと知ってもらおうとすることが大事なんだよ。」とよく言っていました。私もそうだなと思います。差別は、なくせると思います。知ろうと歩みよる心と、知ってもらおうと歩みよる心が合わせれば、そこに理解と優しさが生まれると思います。偏見を無くそうと言っているけれどまだまだあるのが実状です。一気には、変わらないかもしれないけれど、自分がこうありたいとブレずに思っていれば少しずつその考え方が広がって行くように思える。

そもそも障がいがある人を特別なことと思うことが少し間違っていると思う。ひよきんな人も居れば、おこりっぽい人もいる。運動が得意な人もいれば苦手な人もいる。勉強が得意な人も居れば苦手な人もいる。みんなそれぞれ違う物を持っている。考え方一つでとても心がかかることを知ってほしい。私は身近にそれを教えてくれる人がいたから恵まれていると思う。そうではない人にどうにしたら知ってもらえるのか、自分なりに考えて行きたいと思う。

パラリンピックで活やくする障がいのある選手がとてもカッコいいと思う。学校の支援学級に居る子とあそんだらすごく楽しかった。近所でとてもおいしいと評判のお店に買い物に行ったら、障がいのある人がとてもいねいに対応してくれた。妹がかよう支援学校のうんどう会に応援に行ったら、みんな生き生きしていた。これらはすべて私が見てきたものです。きっと気付かないだけで、みんなの身近にもせつしたり見たりするきかいはあると思います。気付いて理解してほしいと心から思います。ノーマライゼーションに考えかたがもっと広がってほしいです。

私の妹が偏見でつらい思いをするかもしれないと考えるだけで私はとても心が苦しくなります。大切な人がくるしむのは、とてもやです。だから私は、絶対に人を偏見で判断しない人間でありたいと思います。そのために自分が成長しないといけません。周りと自分を見比べて物事を判断をするのではなくそれまでの過程を大事にできるようになりたいです。差別は色々なところであります。性別や年れい、障がい、人種、民族、宗教など色々な理由でおこります。国連で決まったSDGSでも差別を無くそうと呼びかけられています。みんなが幸せで心豊かに暮らせるよう、自分にできることからとりくんでいきたいと思ひます。